

青森県八戸市立根岸公民館・八戸市立根岸小学校
「アスネットねぎし」による「地域密着型教育」の取組

地域密着型教育推進事業

「地域密着型教育」は、学校・家庭・地域社会がこれまで以上に連携、協力し、家庭や地域社会の願いや意見を取り入れた学校運営を推進することで、学校教育の質の向上を目指すものである。PTA、青少年生活指導協議会、児童委員、社会福祉協議会、交通安全協会、児童館など、子どもとかわる活動をしている人たちが共通理解を深め、協働・実践することにより、「①よりよい教育環境、支援体制が整えられる ②子どもたちの、ふるさとの誇りと愛着を育む ③明るく活力あるまちづくりに貢献する」等の効果が期待できる。

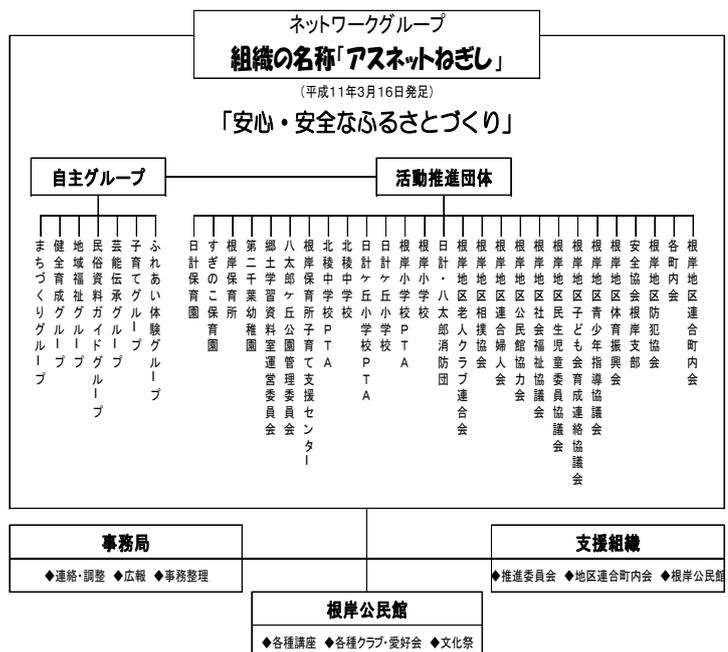
平成25年度は「地域密着型教育」の導入から6年目をむかえ、新たに推進校の18校が加わり、八戸市内公立の全72小・中学校で実践している。先進校では、教職員・保護者・地域住民の代表からなる「地域学校連携協議会」を設置し、保護者や地域住民の願いを学校教育に反映させ、家庭・地域社会の教育力（人材・施設など）や地域の特色を生かした教育活動が充実するよう話し合いがもたれている。また、学校教育の質の向上を図る手立てとして「ボランティアの活用」を推進している。校外学習の付き添い、本の読み聞かせ、調理実習の補助、学校行事の補助、環境整備活動など、ボランティアによる支援によって安全な活動が保障されたり学習環境の質が高められたりしている。さらに、ボランティアとのふれあいを通して、子どもたちは感謝や思いやりの気持ちを持ち、心の成長にもつながっている。

根岸地区

昭和17年に、三戸郡下長苗代村から八戸市に編入したが、地域住民の根岸地区への思いが強い。子ども会活動がさかんで、3世代同居の家庭も多い。現在、地区には小学校2校（児童数増により根岸小から日計ヶ丘小に分離）、中学校1校あるが、3世代とも根岸小卒業という住民が比較的多い。

アスネットねぎし

「アスネットねぎし」は、八戸市根岸地域住民のボランティア組織の総称である。根岸地域は、平成5年ごろから自主的なボランティアグループの活動が活発になってきていた。「明るく活力のある住みよい街づくり」を目指し、既存の30程の活動推進団体や自主グループが一つのネットワークに入り、活動を一層容易にするために、根岸公民館が地域ボランティア活動の推進・連絡・調整の役割を果たしている。



根岸公民館

八戸市内24公民館の中で、講座数・来館者数が最も多い。生涯学習が推進され、地域の教育力の高さがうかがえる。公民館職員は非常勤職員で、すべて地域をよく知る地元の住民である。館長は前根岸小校長であり、平成25年度で勤務9年目になる職員は、地域住民で、根岸小の学校支援ボランティアコーディネーターも兼務している。「アスネットねぎし」の事務局は公民館にある。



連携の経緯

八戸市ですすめている「地域密着型教育」や「学校支援地域本部事業」を始める以前から、根岸地区にはそのベースとなるものがしっかりあった。青森県では、それぞれの学校に、できる限り学校支援コーディネーターを校内に配置する形をすすめてきたが、根岸小では、それまでの支援体制の延長線上で公民館に置くことを選んだ。根岸公民館職員が学校支援ボランティアコーディネーターとして、学校からの依頼を一括して受けている。コーディネーターは2人いて、もう1人は元PTA会長が務めている。連携体制としては、学校側の窓口は教頭が行っている。

この地域の特色として、「地域学校連携協議会」を学校ごとではなく、地区の3校合同で年3回開催している。2011年の震災を契機に、児童生徒の命を守るためには、地区3校が危機管理で別々の対応をしていたら地域住民が困ると考え、このような形になった。また、連合町内会長など3校で委員をお願いしたい人材の取り合いにならずに済む。この協議会が、連携できる顔合わせや情報交換の場としても有効である。



連携事例

- 1 郷土学習資料室（歴史民俗史料室）を開設し、案内を実施している。

「アスネットねぎし」の「郷土学習資料室運営委員会」のグループが中心となって、昔、根岸地域で使用していたもので、現在も残っている生活用具や農・漁具等を地域住民の協力を得ながら、約500種、1,000点を収集し、八戸市立根岸小学校の2室に展示している。この収集整備は平成8年から開始し、平成9年9月から地域住民に開放している。



主な活動は以下のとおりである。

- (1) 農・漁具等の収集活動を引き続き実施している。(随時)
- (2) 児童の社会科学習や総合学習等の時間に、「民俗史料ガイドグループ」が説明や生活用具・農具などを使って体験学習を行っている。
(米づくり学習で、足踏み脱穀機や唐箕を使用するなど)
- (3) 平成11年5月に「根岸言葉諺辞典」を作成し、郷土学習資料室に展示し、総合的な学習の時間などで活用している。
- (4) 平成12年12月に、根岸言葉による「郷土カルタいろは四十八選」を小冊子にまとめた。カルタを制作し、カルタ遊びを通して、根岸の文化・歴史を学んでいる。
- (5) 平成13年12月に、残したい地域の屋号と屋印(焼き印)を調査し小冊子にまとめた。郷土学習資料室に展示し、地域住民のふるさと探訪の参考にしている。



2 地域の小学校(2校)・中学校(1校)の児童・生徒の学習活動支援

「アスネットねぎし」の「ふれあい体験学習グループ」や「芸能伝承グループ」等が学校からの依頼により、児童・生徒の学習活動支援を行っている。

主な内容は以下のとおりである。

- (1) 竹馬乗りや竹とんぼづくり・お手玉遊びなどの指導
「昔の遊び伝承グループ」
- (2) 縄ないやぞうりづくりなどの指導
「わら工芸伝承グループ」
- (3) 豆しとぎやよもぎ餅づくり・ばほり餅づくり・手打ちそばづくり及び漬物づくりなどの指導
「昔のおやつづくりグループ」
- (4) 根岸音頭や八太郎おしまこ踊りの指導
「芸能伝承グループ」
- (5) 根岸地域の昔語りの実施「民俗史料ガイドグループ」



3 根岸公民館と一体となり、活発な活動の展開

- (1) 家庭教育学級の講座では、児童・生徒たちとの交流会で、人生経験の話合い等を行っている。(年20回程度開講)
- (2) 広報誌として「公民館だより」を毎月発行、地域の各家庭に配布し、「アスネットねぎしの活動」や「地域の情報」を広報している。



成果と課題

- 地域の諸団体や機関の結びつきが強固になることによって、地域が一体となった子どもの育成に取り組むことができた。
- 子どもは、地域の方々へ尊敬や感謝の念をもち、地域の方々は、子どもたちから生きがいや活力を得られた。
- ボランティアの高齢化やより多くの人材の発掘、後継者の育成が課題である。

青森県八戸市立大館公民館・八戸市立新井田小学校・松館小学校・大館中学校
「学社連携・融合」を進めた大館公民館の取組

大館地区

昭和33年に大館村から八戸市に編入したが、今でも独立した地域の意識が残っている。八戸地方を代表する民俗芸能の「八戸えんぶり」の組（チーム）が、大館地区には7組もあり、子どもを大事にする地区であることが分かる。地区内に新興住宅地ができ、地区内の新井田小は、八戸市で2番目に大きな学校となった。子ども会行事は、子どもが減ってしまった所は、新興住宅街にある大きな子ども会と合同で実施するなど工夫している。

連携事例

（1）新田城まつり（H25.10.6 土 実施）

大館地区内の新興住宅街では、若い世代での町内会の加入率が低い状況にあった。そうした地域を含め、地区を一体としようとして実施したのが「新田城まつり」である。平成25年度に9回目を迎え、小学校（2校：全員参加）、中学校（1校：有志）、地区住民が参加する地区で一番の祭りである。3校の校長を始め、多くの教職員も参加・協力している。八戸市の後援を得ているが、地区住民が立ち上げ、運営委員として皆がかかわり開催している手づくりの祭りである。

（2）各種講座

各種講座（家庭教育学級、公民館活動教室、その他の機関との講座）の内容は、地域のことを中心に長いものになると、10年くらい続いている。小学生を対象にした講座が多い中、中学生を対象にした「地域ゼミナール」は、中学生と地域の方がまちづくりについて意見交換するもので、放課後に公民館を会場に行われた。この他、「中学校へ行こう」「大館中学校合唱コンクール鑑賞」「大館中学校立志式見学」は、中学校へ行く機会がなくなってしまった地域の方に好評である。

非常勤職員である公民館長が、3代続けて校長経験者であった。また、現公民館長までの館長全員（8名）が地域の人でもある。上記の事例（1）「新田城まつり」では、事務局は大館公民館にあり、事務局長は館長が務めている。情報発信・諸連絡・祭り関連講座の開催等の役割を担っている。また、事例（2）「各種講座」は、実施主体が公民館と学校の共催が多く、実施場所は各学校や公民館、関係機関で行っている。講座の事前打合せは、公民館職員が学校に出向いて行っている。

成果と課題

- 子どもたちが、地域の豊かな自然や郷土芸能などを学ぶ機会が増え、地域に関心を持ち、地域の方とつながりができ、地域の一員であることの自覚と地域への理解が育っている。
- 公民館職員は「地域づくりの拠点」としての意識を持ち、さらに、学校・保護者・地域の三者間での関係を強化できるような活動を多く考えていきたい。

青森県八戸市立柏崎公民館・八戸市立柏崎小学校・第三中学校
 青森県立八戸盲学校・八戸聾学校

「子ども」を対象にした講座の実施

連携事例

柏崎公民館は、市の中心部にあり、近隣に柏崎小学校、第三中学校、八戸盲学校・八戸聾学校があり、各学校種に沿った内容の連携を実施している。

連携体制としては、学校側の窓口は教頭、ボランティア関係はコーディネーター（校内の一室にある地域連携室にいる）が行っている。公民館長は、「地域密着型教育推進事業」に理事としても参画している。また、学校の職員等（校長・教頭・生徒指導担当・PTA役員）も地区連合町内会や諸団体の一員として、各種会議や活動に参加している。公民館長は、「学校だより」や「公民館だより」等にて連携事例の情報を発信している。また、子どもを対象とした講座の案内・通知は、学校を通じて配布している。

（1）柏崎小学校

公民館講座を柏崎小学校で実施している。児童は、通い慣れた学校を会場にしているので、保護者の送迎を必要とせずに参加できる。内容は、「読み聞かせ教室」などである。他に、公民館を会場にした講座「夏休み工作教室」「柏崎音頭の踊り練習」「子どもヒップアップ講座」「パソコンで年賀状作り」を実施しているが、どの講座も人気が高い。

また、2年生が「生活科：町たんけん」の授業で柏崎公民館を訪問した際には、施設の見学やインタビュー、防災グッズの体験を行うなど、協力している。

さらに、公民館長は安全パトロール協議会の事務局長を務めていて、柏崎小学校の下校指導に参加している。

（2）柏崎小学校・第三中学校・八戸盲学校・八戸聾学校

公民館主催事業の「公民館文化祭」には、児童・生徒の作品を展示している。また、公民館だよりに、出品した児童・生徒の名前をすべて掲載している。

（3）第三中学校

第三中学校を避難所として、中学校と地域住民との合同防災訓練を実施している。生徒が自己の命を守り、かつ避難所の運営の支援にどのようにかかわることができるか、体験させている。公民館長は、地域自主防災会の事務局長を務めている。

（4）八戸盲学校・八戸聾学校

津波災害を想定した時の目的地として、柏崎公民館が避難場所になっている。

成果と課題

- ・連携により、各学校の特色や活動内容などが分かる。
- ・地域住民にとって、在校生がいなくても、各学校を自分たちの学校という意識を持つことができる。
- ・地域活動の中心メンバーが固定化し、高齢化が進んでいるので若返りが必要である。